

ハウツー

“ひとびと.net”完全ガイド

「生活者

「もし、自分が詳しいテーマに関して記事を書いて公開し、そこに大勢の人々が集まってきたら……」。そんな思いを実現させるコミュニティが誕生した。“誰もが主役になれるコミュニティ”でアナタもデビューしよう!

（株）ハーティネス テクニカルライター 高橋慈子

コミュニティを開設しよう!

受け取るだけもう古い!?

「ひとびと.net」でできること

現在、大勢の人が自分のホームページを開設しているが、それを見るターゲットが絞きれないためか、一方的な情報提供で終わってしまいがちだ。だが、1999年秋にスタートした「ひとびと.net」を利用すれば、そんなことはない。なぜならここは、同じテーマに興味を持つ者同士が集い、より豊かな情報を蓄積する場として、独自のコミュニティを築きあげているからだ。ひとびと.netでは、「なにかを知りたい人に聞くのが便利はらず、そうしたら次は知った情報をほかの人にも伝えたくはらず」といった人間の自然な感情を、オンライン上のコミュニティで実現できるように工夫している。

たとえば、ひとびと.netの一番小さな情報単位である電子会議室の「ワイワイ会議」。ここは、メーリングリストとウェブ会議室を連動させた場で、同じテーマに関心がある人たちと情報交換ができ、誰もが無料で主催できるようになっている。ただし、テーマや内容については事務局の審査がある（後述）。また、会議室を主

催する人は、顔と名前を公表することがこのルール。たとえば、「こんな顔をした、××××さんが開催している会議室なんだ」と知ったうえで参加すると、顔も名前もわからない人が主催する会議室に参加するのでは、前者のほうに親近感がわき、人が書くリアルな情報だと感じる。顔写真の公開はそのためのルールなのだ。実際、ひとびと.netの会議室を見てみると、「手抜きクッキング倶楽部」、「イケてる飲み屋さん」といったユニークなタイトルと主催者の顔写真がずらりと並び、ついつい覗いてみたい気持ちになる。

こういった心理について、ひとびと.netの事業マネージャーである木下真佐子氏は、「ワイワイ会議のテーマには、人が作っているからこそその切り口があります。単にお料理のコーナーというのではなく、手抜きのお料理だったり、安くできるお料理だったり……。いま、企画中のページに香港をテーマにした会議室がありますが、当初、私たちはグルメや占いの話をするだろう

と予想していました。それが、銀行口座を作ったらどうだったとか、子供と一緒に旅行する場合にベビーカーは持っていったほうがいいのかとか、あるいは向こうで借りられるのかとかいった話題が盛り込まれています。そういう実体験をもとにした話のほうが興味を引き、ためになりますよね。体験を主体としたものは、頭で考えるというより、日ごろの行動や感じることから生まれるもの。そうした生きた情報を交換できることが、ひとびと.netの魅力だと思います」と語る。

アルビン・トフラーが著書『第三の波』の中で、価値の生産活動に主体的に参加する生活者を「プロシューマー」と名付けたような、新しい価値や情報を作る人びとが活躍する場。それが、ひとびと.netの目指す姿なのだろう。

近年、情報を受け取るだけではつまらないと感じる人たちが増えている。そんな流れのなか、単に自分でホームページを作るだけではなく、情報を相互に編集して新しい価値を作っていくというのが、新しい情報流通の形となりそうだ。

ならではの特徴とは？

ひとびと.netはココにこだわる

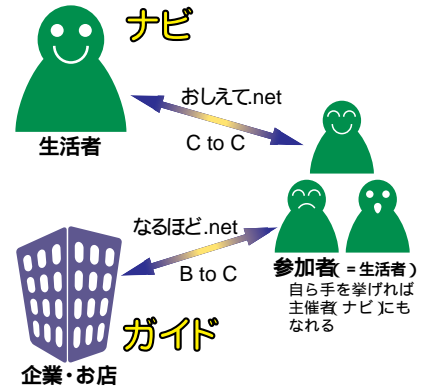
前述のように、ひとびと.netでは、「人」(生活者)がキーワードになっている。では、「生活者が情報を提供する」ために、一体どんな工夫がなされているのだろうか？ここでは、ひとびと.netならではの特徴を紹介しよう。

生活者が育てるコミュニティー

ひとびと.netでは、あくまで「生活者」が情報を提供する主役となってコミュニティーを形成している。それを具体的に説明するには、企業が作るページと比較してみるとわかりやすい。従来の企業が作るページは、新製品の情報やサービスの説明などの情報を生活者に一方的に与えるだけで、「使ってみてどうだったのか」「ここが気に入った！」という生活者の声が出てこない。そこでひとびと.netでは、生活者が自ら気に入っていることや関心のあることについて語り合うコミュニティーを作った。コミュニティーの種類は大きく分けて2つ。1つ目は個人が自分の持っている情報を公開するページの「おしえて.net」

で、2つ目は企業が生活者に向けて送る「なるほど.net」だ。なるほど.netの場合でも、接客をする「ガイド」が「電子会議室」や「ページ」を作ってコミュニティーを運営する点で、既存の企業が提供するページとは大きく意味合いが異なる。あくまでここは、参加者とガイドが双方向の情報交換をする場なのだ。eコマースでは、情報やお金の流れを「C」(Consumer)と「B」(Business)で表し、「C to C」(生活者から生活者へ)、「B to C」(企業から生活者へ)とモデル化するが、この両方の機能を備えたコミュニティーの総称が、「ひとびと.net」と言えるだろう。

生活者主体のコミュニティー



プロ顔負けの生活者が作る「ページ」と「会議室」

C to Cのおしえて.netと、B to Cのなるほど.netの機能やサービスについて、もう少し詳しく見ていくことにしよう。

「情報を発信したい」「コミュニティーを作りたい」と思ったら主催者になるための申請をする。この主催者のことを、おしえて.netでは「ナビ」と呼び、なるほど.netでは「ガイド」と呼ぶ。いずれもコミュニティーの運営を案内する案内役といったイメージだ。

ナビあるいはガイドになるために必要な申請はすべてオンラインでできるが、まずは、表にあるようにAタイプとBタイプのいずれかを選ぶことになる。個人向けでも企業向けでも、コミュニティーの最小の基本単位は「ワイワイ会議」と呼ばれるメーリングリストとウェブを連動させた会議室。Aタイプでは1つの会議室の運営から

スタートでき、Bタイプでは会議室が2つになり、記事を掲載するナビページかガイドページを利用できる。あくまでもコミュニティーが主体のため、ナビページやガイドページのみ(発信するだけ)の使用は認められていない。

サービスの利用を申し込むと、ひとびと.net専用のメールアドレスが1つ用意される。このメールアドレスが、ナビやガイド専用ページへのログインIDを兼ねる(後述)。

ナビページやガイドページには、「記事」と呼ぶトピックスを掲載することが義務付けられており、ナビやガイドから参加者に伝えたい情報を発信したり、会議室で話題になったことを取り上げてまとめてもらったりできる。会議室の中では埋もれてしまいそうな情報をわかりやすい形で発信することが、ナビページやガイドページの役割なのだ。

表1 利用概要

	形態	ページを持てるかどうか	主催者の呼称	メールアドレス	もらえる会議室の数	オプション	利用料(月額)
おしえて.net(A)	C to C	×	ナビ		1つ	×	無料
		ナビページ			2つ	×	無料
なるほど.net(A)	B to C	×	ガイド		1つ	電子貸店舗	有料(3,500円)
		ガイドページ			2つ	(有料)	有料(12,000円)

いいネタを提供すればお小遣いもたまる

ページ内から簡単に支払える「Thank you チップ」は、ページを訪れた参加者が「役に立ったよ」という気持ちをお金に替えて作成者に提供するシステムだ。決済方法としては、小額決済が行える「MilliCent」^{Jump01}が「アコシス」^{Jump02}がある。

また、同じテーマに興味を持つひとのコミュニティーは、広告主から見ても魅力的な場であるはず。今後、さまざまな広告主が、目をつけたページにどんどん広告を出していくことも予



チップをクリックすれば 支払い方法や金額を選べる

想される。その場合、広告収入のうちの何パーセントかは主催者に還元される予定だ。

^{Jump01} www.millicent.gr.jp

^{Jump02} www.acosis.com

匿名の参加者はお断り

「おしえて.net」「なるほど.net」ともに、ナビやガイドが自ら顔写真と名前を公表して運営している。参加者も、メッセージを書き込むためには名前などの登録が必要だ。匿名性の排除が、安心して参加できる場を作っている。

まずはのぞいてみよう

「私もコミュニティーで主役になって記事を作りたい」と思ったら、まずはページや会議室に参加してみよう。楽しむためのさまざまな工夫や機能が盛り込まれているので、体験してほしい。

生活者が記者になれる まったく新しい情報ページ

生活者が情報を交換し合う。それだけだったら、ただのコミュニティーだ。だが、ひとびと.netの情報流通スタイルは、ほかのコミュニティーとは一味違うようだ。それではさっそく、ここでなにができるのかをチェックしてい

生活者の知識こそが大切なコンテンツ

生活者が発信するC to Cの情報コミュニティーが、「おしえて.net」だ。なにが知りたいことがあったとき、ここを訪れるとそれに詳しい人物がなんでも教えてくれる。人間というのは、誰かになにかを教えてもらったら、反対に自分もなにかを教えたいくなるもの。「ほかの人にちょっと自慢したい技や趣味がある」「この分野なら私に聞いて!」という人は、ぜひ、ナビになってページを主催し、自分が知り得る限りの情報を世の中の人に教えてあげよう。

さて、ナビになってページを開設するのは無料だが、ナビになるには審査があるのがひとびと.netの特徴だ。審査内容は、名前や住所などを登録し、自分が運営したい内容を申請して事務局の審査にパスするといったもの。この過程を経ているからこそ、生きて生活している人が提供する、価値ある情報を得られるコミュニティーが作られていくのだ。

おしえて.netは、前述のように、「ワイワイ会議」と呼ぶ、メーリングリストとそれに連動し

た会議室と、「ナビページ」と呼ばれる情報提供機能が構成されている。ワイワイ会議を1つ運営するAタイプと、ワイワイ会議2つとナビページを運営するBタイプがあり、登録時に各自が選択することになっている。いままでメーリングリストを主催していた人や、メールマガジンを発行した経験がある人なら、ナビページ付きのBタイプを申し込むといいだろう。逆に、はじめてコミュニティーを運営する人なら、欲張らずにAタイプからスタートし、情報が蓄積されてきた時点でナビページを開設するのがおすすめだ。

主催者が心得ておくこと

[運営条件を確認すべし]

おしえて.netでページを運営するには、1つのワイワイ会議を運営することが最低条件。オリジナルテーマのあるテーマを考えて開設を申請しよう。基本的に運営は3か月以上が原則だが、この条件を満たさないと罰金などということはない。会議室のウェルカムメッセージや登録者へのニュース配信、会員登録などの作業を行い、コミュニティーを盛り上げるのが重要だ。

[事前のお披露目が大事]

申請したテーマが承認されると、事務局の専任スタッフが決まる。このスタッフは、ページの構成や内容について相談に乗ってくれる。テーマによっては、公開前に「企画中ページ」で参加者に内容を公開し、参加してみたいと思うかを投票してもらったり、意見を募ってブラッシュアップしたりすることもある。ここで話題を盛り上げ、華麗なるデビューを果たそう。

[ニュース記事を配信すること]

ナビとなってワイワイ会議を公開したら、参加者に向け、毎週、メールでニュースを配信することが義務付けられる。いま、会議室でなにが話題になっているのかを知らせたり、旬のトピックスを伝えるのは、会議室を盛り上げるために効果的な方法だ。ニュースと言っても堅苦しい決まりごとはないので、自分の言葉で仲間に向けて書くメッセージのノリで大丈夫だ。

主催者を応援する機能あれこれ

[満足度がわかる]

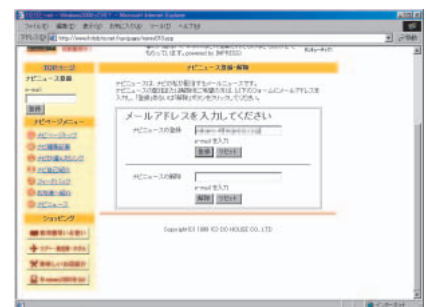
「参加者は楽しんでくれているのかな? どんな情報が欲しいんだろう?」と悩むナビを助ける仕組みが「フィードバック」。すべてのページに標準で「フィードバック」ページが用意されており、満足度や役立ち度を選び、コメントを加えて簡単にナビに感想を伝えられるようになっている。参加者からの声は、もっとおもしろいページを作ろうという励みになるだろう。

[友だちに紹介できる]

「この会議室、おもしろいよ! 参加してごらんよ!」と口コミで広がるのが、インターネットのコミュニティーの特徴。こうした口コミの輪を広げる支援をするのが「お友だちへ紹介」機能。ページを見た人が簡単に友だちに知らせられるようにボタン1つで友だちへの紹介メールが送信できる仕組みになっている。友だちに知らせてもらえるよう、ナビからも積極的に呼びかけよう。

[まずはメールで仲良くなれる]

ナビが作る「ナビニュース」は、毎週1回、メールで送られてくるため、会議室に正式登録していなくても読むことができる。参加前に、やり取りされている内容やナビの人柄を知らせるにはもってこいのツールだ。各ページごとで登録でき、登録方法はメールアドレスを入力して「登録」をクリックするだけで簡単。また、ニュース配信の停止も各ページから簡単にできる。

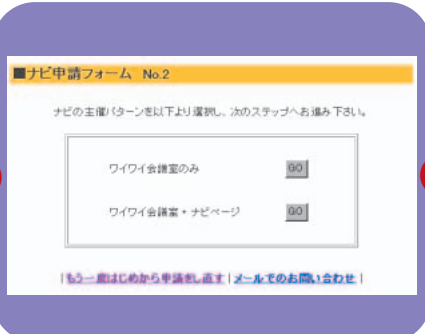


④③で「まだ」の場合は、メンバー登録画面で必要事項を入力。「すでに」の人は、メールアドレスとパスワードを入力後、「次に進む」をクリック



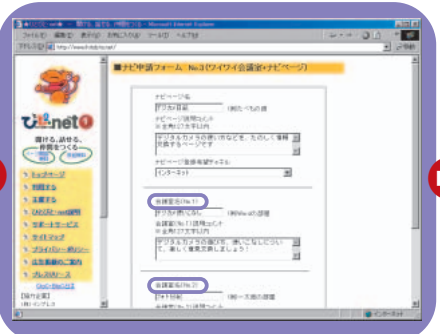
メンバー登録画面では、氏名や住所、生年月日などを入力。実名が原則なので、この項目は必須。また、連絡用のメールアドレスとパスワードも入力しよう。後日、申請承認の連絡がくる。

⑤登録内容の確認後、「次のステップへ」をクリックし、以下の画面で主催パターンを選択



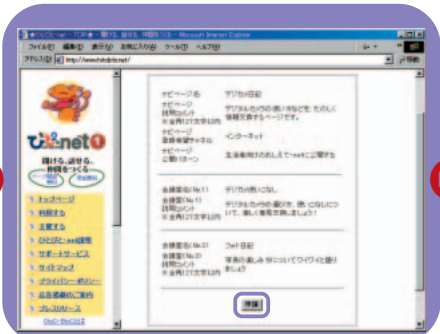
主催パターンは、「ワイワイ会議室のみ」と「ワイワイ会議+ナビページ」の2種類。最初は「ワイワイ会議のみ」からスタートし、話題が増えたらナビページを作ってもOK。

⑥フォーマットに応じて「ナビページ名」「会議室名」「説明コメント」を入力し、「登録内容の確認」をクリック



ワイワイ会議の会議室は2つ持てる。人が集まるように、ナビページ名や会議室名は、わかりやすく魅力的なものにしよう。説明コメントで内容をアピールするのもお忘れなく。

⑦確認画面で内容を確認後、「申請」ボタンをクリック



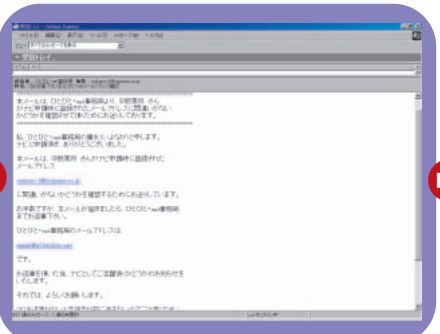
確認画面には、入力したナビ名や会議室名、説明コメントが表示されるので確認しよう。修正したいときは、ブラウザの「戻る」ページで入力し直す。これでよしと納得したところで申請しよう。

⑧完了メッセージが表示される



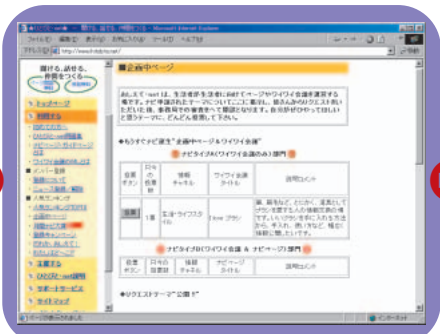
内容が事務局に送信され、ナビやガイドの申請は完了する。申請後、1~3日で事務局からの確認メールが届く。

⑨事務局から届いた申請確認のメールに返信する



申請したメールアドレス宛てに事務局から確認メールが届く。本人であるかどうかを確認する大切な手順なので、すぐに返信しよう。返信が確認となり、次のステップへ進める。

⑩事務局で申請内容を吟味。「企画中ページ」でのユーザー投票も参考にして内容を審査し、開設の是非を決定



ナビページ名や会議室名、説明コメントの内容を事務局の担当者がじっくり検討して、開設を決定する。場合によっては、「企画中ページ」のコーナーで参加者の反応を見ることも。

⑪開設認可が出たら……

ナビ

担当者が決まり、ナビ用メールアドレスやナビページ作成の詳細な説明がメールで送られてくる。完了したら担当者に報告する

ガイド

登録事項の詳細と請求書が送付されるので、書類を作成して郵送する。利用料を振り込む。その後は上記のナビ手続きと同様だ

⑫事務局が作成したページをチェック。OKならば開設!!



ナビガイド専用ページで、会議室やナビページを作成。顔写真も送っておく。ページができたなら、担当者にチェックしてもらい、いよいよ開設へ。これでワイワイ会議やナビページが公開される。

あなたならどう作る？

ナビページ&ガイドページの作成法とコツ

さて、申請のOKが下りたら、いよいよページ作成開始！ここでは、作成方法と人気のあるページを作るためのコツをお教えしよう。はじめが肝心なので、じっくり時間をかけて作ってほしい。

ページの作り方はいたって簡単

自分のページを作りたいと考えている人なら、ワイワイ会議に加えてナビページも作ることをおすすめしたい。「おしえて.net」では、無料でナビページが持てるのだから、これを利用しない手はない。ワイワイ会議だけからスタートした人も、話題が増えれば増えるほど、トピックスをまとめてみんなで共有できるナビページがほしくなるはずだ。

ナビページを作るのは難しくない。HTMLをカリカリ書いたり、ウェブページ作成ソフトを使うといったことも不要。ナビガイド専用ページを使い、すべてウェブ上で作れるようになっている。とは言っても、じっくり内容を考えたり、記事や会議室のメッセージを考えたりするのは大変。インターネットにつなぎっぱなしだと不経済なため、ダウンロードして使える編集フォームも

用意されているので、それを利用してもいい。エクセルのフォームに必要な情報を入力しておき、コピー&ペーストをして登録できるので便利だ。情報は簡潔に、わかりやすくまとめるのがコツ。興味を引きそうなネタを仕込んでおくのが、多くの人に見てもらおうためのポイントだ。

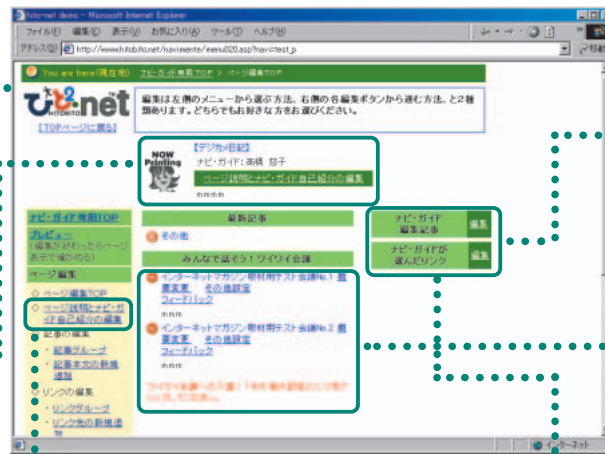
こうして情報を編集することで、プロの編集者のような編集技術も磨かれていくことだろう。

設定しよう！

ナビガイドページに登録したメールアドレスとパスワードでログインすると、トップページが表示される。まだ中身を入れていない初期画面の状態。

ナビまたはガイドの自己紹介を登録しておくこと。どのような人が運営しているのかを紹介するために必須の情報。自分の趣味や興味を持っていることなどを書き込もう。

ナビページやガイドページで記事を掲載する際は、記事の編集フォームで記事グループなどを設定する。わかりやすく、興味が湧くように作るのがコツ。



会議室+ナビページで申し込んだ場合は、記事やリンクを所定の数以上用意する。記事やリンクの作成は、画面のフォームで行ってもいいし、用意されているエクセルのフォームに従って入力してアップロードしてもOK。

ワイワイ会議の設定や、ナビによるウェルカムメッセージとなる最初のメッセージなどを準備しておく。思わず参加したくなるような内容にしたい。

1本の記事は、タイトル、要約、本文から構成される。内容を入力したら確認画面でチェック。「追加します」をクリックすると、ここで入力したことがナビページやガイドページに追加される。プレビュー画面で確認しよう。

ワイワイ会議では、会議室への参加を許可する権限や会議室に登録する発言をチェックするかどうかなどを設定できる。ナビの立場に立った工夫があるのがうれしい。

設定完了！

ナビやガイドの紹介として、顔写真をクリックすると登録した自己紹介が表示される。顔写真は、事務局に送ると担当者が大きさを調整して登録してくれる。

登録した記事のタイトルと要約が、「最新記事」の欄に表示される。編集したいときは内容を更新しよう。



ナビ編集記事の欄には、記事グループが表示されている。ここをクリックすると、そのグループの記事が表示される仕組み。記事グループは最初は欲張らず、徐々に増やそう。

ナビやガイドが選んだリンクには、登録しておいたほかのページへのリンクが表示される。リンクもグループ化することになっていて、ノルマは2グループ、6リンク以上。

リンク：あるウェブページからほかの関連ウェブページへジャンプさせるための関連付けの目印。リンクを設定することで、ウェブページの特定の場所をクリックするだけで、該当ウェブページにジャンプする。

電子会議室とMLが連動

いつでも見られるML@会議

ひとつと.netのもう1つの顔が、この「ワイワイ会議」。ウェブとメーリングリストが一体化したこの会議室では、一体、どのようなコミュニティが作られているのだろうか？

メールでチェックできる会議室

メーリングリストのよさと、電子会議室の一覧性や蓄積性を併せ持っているのが、「ひとつと.net」の「ML@会議」(ワイワイ会議)だ。この電子会議室では、コミュニケーションを活発にするためのさまざまな機能を持つオリジナルのシステムを使っている。

ひとつと.netのトップ画面にある「全ページ&全会議室一覧」タブをクリックすると、会議室

の一覧が表示されるが、これがなかなか壮观。

単なるメーリングリストと違うのは、ナビやガイドが、投稿できるメンバーを管理している点だ。誰でもOKや書き放題ではないため、ある程度の質が保たれており、安心して参加できる。

また、電子掲示板との違いは、新しいメッセージがメールで受け取れるところにある。これなら最新の話題を見逃さなくて済む。



「全ページ&全会議室一覧」。ナビやガイドの顔と会議室の概要を見ることができる。

会議を盛り上げるための主催者の知恵

[話題の投げかけで盛り上げる]

ワイワイ会議を、その名のとおりワイワイと盛り上がるものにするには、ナビやガイドが場をオペレーションすることが大切だ。ナビやガイドは、新しい参加者を紹介したり、興味を引くような話題を投げかけたりコメントしたりと、マメなフォローで投稿を増やす努力をしている。

参加者が思わず投稿したくなるように頑張ろう。

[困ったら専任スタッフにHELP]

「頑張っているのになかなかメッセージが増えない……」「どうも話題が続かない……」と困ってしまったら、事務局の専任スタッフに相談できる。「こうしたら話題が広がるかも」「それはちょっとわかりづらい」といった第三者からのアドバイスはとても参考になるし、悩みを聞いてもらえるだけでも心強いものだ。

[投稿内容を事前にチェック]

ワイワイ会議では、投稿内容をナビやガイドが事前にチェックしてから公開するような設定もできる。特に「なるほど.net」では、商品の中傷するようなメッセージや、読んだ人が不愉快になるようなNGワードを前もってチェックできるので安心だ。また、事前チェックの設定は、各会議室ごとに行える。

会議室を使いこなそう

ワイワイ会議を100パーセント楽しむためのヒケツ

よく整理されたコミュニティとは言え、やはりページ内で自分の目的にすんなりたどり着けないときもあるだろう。ここでは、そんなときに役に立つさまざまなシステムを紹介しよう。

▶ 3つの参加形態

ワイワイ会議には(1)ビジター(2)ゲストメンバー(3)正式メンバーの計3つの参加形態があり、各自が各テーマに対する関心の高さに応じて参加形態を選択できる。(1)はウェブ会議室でのメッセージを読むだけ、(2)は発言はできないがメールでメッセージを送ってもらえる、(3)は発言もOKといったものになっている。

▶ 知りたいことは「だく~ら」に聞こう

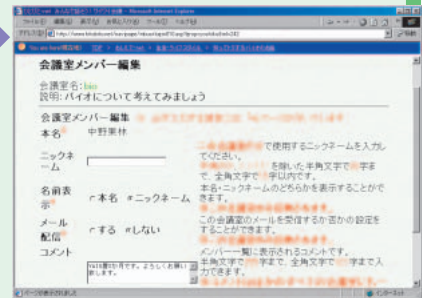
「こんなこと知りたいんだけど、どの会議室に参加したらいいの？」と悩んだときは、ひとつと.netのイメージキャラクター「だく~ら」におまかせ。トップページの「だれか、おしえて!」をクリックすると質問フォーマットが登場。ここに質問を登録しておくと、自動的に全ナビ&ガイドに質問が送信され、そのテーマに詳しい人が質問に答えてくれる。

▶ メール配信を停止するには?

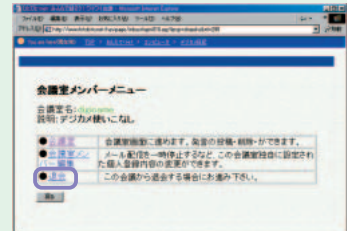
「メーリングリストでメールがたくさん来るのはちょっと困る。でも、ワイワイ会議をウェブでチェックし、投稿もしたい」という欲張りな要求もOK。正式メンバーになり、「会議室メンバー編集」機能で「メール配信」を「しない」にチェックしておけばいい。一時的に停止したいといったこまめな設定変更もできる。

▶ マイページ機能を追加

ひとつと.netでは、より使いやすくてわかりやすいページ構成となるようにインターフェイスも進化を続けているが、新機能の中でも注目したいのがマイページ機能だ。これを使えば自分が参加している会議室やページを画面に登録しておき、マイページからぱっと目的の会議室のページに行けるようにしてくれる。探求心が旺盛で、たくさんのページや会議室に参加したいという人におすすめの機能だ。



[退会したくなったら?]



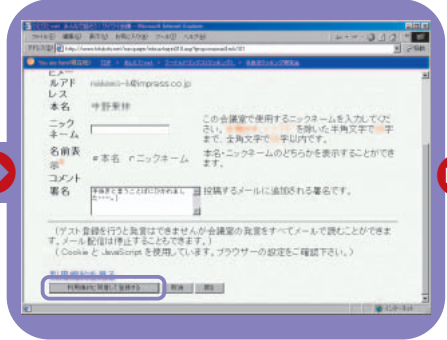
メンバー編集機能で「退会」をクリックし、退会を申し出よう。

登録方法はとても簡単

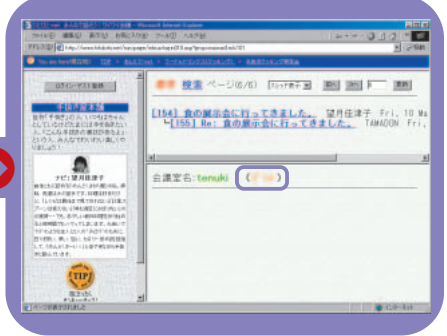
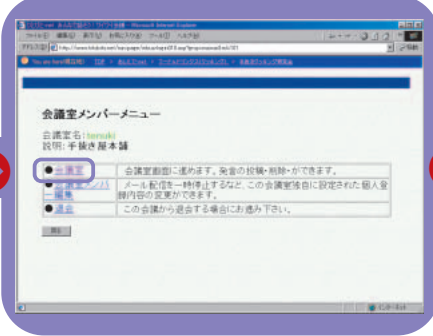
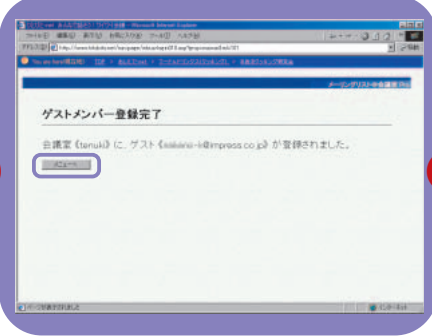
ワイワイ会議に参加しよう!

おしえて.net、なるほど.netには、魅力的なワイワイ会議が続々と登場している。正式メンバーの登録をしてあなたもメッセージを投稿しよう!

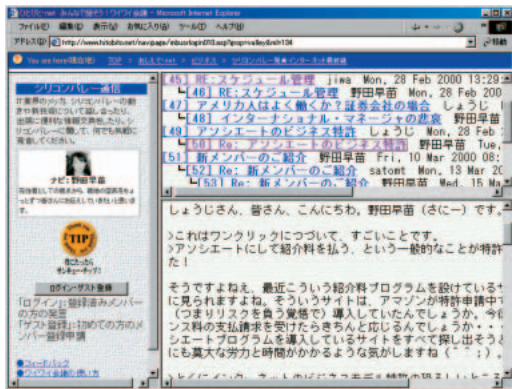
- 1 参加したい会議室へ行き、「ログインゲスト登録」をクリック
- 2 メールアドレスとパスワードを入力し、「登録画面に進む」をクリック
- 3 必要事項を入力後、「利用規約に同意して登録する」をクリック



- 4 「ゲストメンバーに登録完了」と表示されたら、「メニューへ」をクリック
- 5 「会議室メンバーメニュー」から「会議室」を選択
- 6 会議室のトップページにジャンプ。承認まで「ゲスト」として参加しよう。



ワイワイ会議に潜入だ!



会議室の正式メンバーになったら、会議室のトップ画面から「ログイン」しよう。これでメッセージを投稿できるようになる。会議室の「メッセージ一覧」の下にある「新規」をクリックすると、メッセージを入力するためのウィンドウが開く。コメントする場合は、メッセージを選んで「返信」をクリック。ウェブ会議室では、コメントツリーがわかりやすいスレッド表示と、発言順表示のどちらかを選べるので、切り替えながらメッセージを読もう。一覧を見れば、どのような話題が話されていたのかが一目でわかるのもうれしい。時間がないときは、興味のあるメッセージをいくつか読んでOK。

Interview

「価値のある情報は体験の中にある」

情報というのは人が持っているもの。その人が体験したことによるものが、もっとも価値のある情報ではないかと考えています。ひとびと.netでは、体験した人に聞くことができたり、同じテーマで情報を出し合ったりする中から新しい発見があるような、生活者が相互に情報を流通できるコミュニティを目指しています。ひとびと.netを運営する榎ドウ・ハウスは、これまで20年にわたり、主婦をネットワークしてマーケティングや各種の調査などを手がけ、言わば「人を介する」仕事をしてきました。こうした経験をもとに、ひとびと.netでも、専任スタッフが個別にナビやガイドの方とコミュニケーションを取りながら進めています。単に「事務局にご相談ください」ではなく、誰々宛てに連絡してくださいとお伝えしています。ナビやガイドの方々専用のページでも、活発にノウハウを交換しています。

今後、どんどん「人」に来ていただけるような仕組みを強化し、応援していきます。また、ナビやガイドへのフィードバックの内容を充実し、どのような人が、どう集まっているかを把握しながら、コミュニティを盛り上げていくことができるようにしていきます。この秋までに500の会議室が立ち上がる計画です。みなさん、ご期待ください。



株式会社ドウ・ハウスのひとびと.netプロジェクトチーム。今回インタビューに応じてくれたのは、木下真佐子氏（新規事業開発部長 / ひとびと.net事業マネージャー：写真上段、右から3番目）。



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp